

までの事識人たちの説は、大名牟遲神、八千矛神、大國主神、大國魂神、顯國玉神を、古書に同神の異名と有に據てこそ同神と説つれ、然る言無らむにば、別神と思ひやらるゝ説等なりかし、よし并らむるこそ、學問の才とはいへ、其を熟明また稱る氏は同じて、祖は異なるを、其氏々に本末ある事は、中臣氏の中臣は、中執持てふ言の約れるにて、師説と異なり、古史傳に、神と皇との御中執持つ、兒屋命の子孫に屬る、本よりの氏なるを、其外にも中臣某と云姓、これかれ見えたるは末なり、

〔古事記〕下天皇既崩、無可知、日續之王、故品太天皇神。應五世之孫、袁本杼命體。自近淡海國令上坐而合於手白髮命、授奉天下也。

〔古事記傳〕四十三五世之孫は、伊都々藝能美古と訓べし續後紀十五の歌に、那々都義乃美與爾。れりける、此らは御代嗣の數を云るなれど、父子の世繼も同じことなり、さて孫はかくさまのは、ミマゴと訓は非なり、此は子の子の子のなれど、父子の世繼も同じことなり、さて孫はかくさまの廣く後裔まで通へる稱なれば、比古とこそ云れ、麻基と云は後なり、さて美古とまは、

〔日本書紀〕十七男天迹天皇更名彦譽田天皇神。應五世孫、彥主人王子也、母曰振媛、振媛活自天皇垂仁七世孫也。

〔三代實錄〕三貞觀元年六月二日丙戌、正六位上秋岡王、秋雄王、良岡王、三常王、德成王、無位廣貞王、廣益王、廣梁王、山村王、廣隅王、清隅王、十二人、並賜姓清原真人、一品舍人親王六代之孫也。

〔將門記〕夫聞彼將門者、天國押撥御宇柏原天皇五代之苗裔、三世高望王之孫也、其父陸與鎮守將軍平朝臣良持也、舍弟下總介平良兼朝臣將門之伯父也、而良兼以去延長九年聊依女論舅甥之中既相違云々、

〔代數考〕幾代の孫といへるに己をば除くや、除かざるやの事、按に、一桓武、二葛原、三高見、四高望、五良將將門也、本文に高望を三世とかけるは、三世王といふことにて、代數のことにあらず、

〔平治物語〕三牛若與州下事